

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット日誌に表記する事で、職員が毎日理念に立ち返り、意識しながら具体的なケアに結び付けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長や地域包括支援センター職員、民生委員の方を交え、運営推進会議を開催し意見交換をしている。又、地域での清掃活動や避難訓練に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座は、近隣地区での開催、または校区外の保育園からの要請があり、今年度は3回開催し、若年層に対しても認知症の理解が深まるような内容を計画し、支持を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、本人の家族などを交え、事業所の現状、活動内容を報告した後、意見交換を行い、メンバー意見を基にサービス向上に繋がる計画し取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム担当者に分からない事がある場合にその都度、電話や直接窓口に出向き指導を受けるようにしている。又、会議に出席された担当者の方には意見を求め協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でスタッフに対して勉強会を行なうことにより、身体拘束について理解を深めている。勉強会の内容として、具体的な例を挙げ自分達のケアに結びつけながら考えられるような内容で行ない、実践をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体、心理、性的、経済的な虐待の他、介護、世話の放棄虐待である事を充分理解している。又、虐待につながらない様、職員の精神負担の軽減、チームで考える、見守る、意見できる関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し理解を深め、参加者はホーム内で勉強会を行い他の職員にも伝達している。参加できなかった職員には、報告書と資料を回覧して周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は充分時間をかけ、質問を聞きながらすすめている。又加算の変更や料金に関わる事柄はその都度説明する時間を設け、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を他の事業所と合同で行ない、具体的な困りごと、家族としての思い、本人の代弁者としての意見を外部に発信して頂く機会を設け、意見を運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートの実施、代表者、管理者を交えた個人面談の実施等、職員一人ひとりの意見やユニットとしての全体意見を取り入れるようにしている。ミーティングや個人に意見を返すようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価基準をもうけ、月単位、半期ごとに集計、評価することで、賞与、昇給に反映できるようにしている。又、個々の家族状況や急な体調変化に対しても変更、有給消化できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(てんじゅ勉強会)を月2回開催した。又マニュアルを整備し、実技を交えた研修、外部研修参加者が内部研修での伝達を行うなど仕組みづくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームとの合同研修会の開催や行事への参加を継続して行っている。他ホームとの情報交換は事あるごとに密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとりながら、本人の様子、表情などを観察し、不安が無く落ち着いた生活をして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても、細やかに報告し、要望をたずね、同意を得てから進めていくようようしている。また、暫定プランを作成してから、ケアプランにつなげていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係性ができるまでは、その人が発する言葉、行動、家族の状況等を見極めたうえで、サービスにつなげるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が置かれている状況を理解し、敬う気持ちを忘れないように接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時には、状況報告を家族に行い、家族と協力しながら本人の支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の方が気軽に尋ねて来られるような雰囲気を作り、自宅での生活の一部が継続できるよう支援している。又、本人が大切にしている思い出の写真を部屋飾るなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間を取り持ちながら、皆の共通話題を提供し、会話を楽しむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからの家族の来訪や手紙のやりとり、時には、自宅を覗いて声をかけたりしてこれまでの関係を継続しているようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動などから本人の思いや意向をくみ取り対応している。又、職員同士情報を共有し本人の支援にはんえいさせている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のアセスメント内容がいつでも確認出来るようになっている。本人や家族との会話から新しい情報が得られた場合に記入し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに目を向け、本人がどのように過ごされているのかをよく観察し、心身の変化や有する能力の可能性を確認しケアに移行できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時にカンファレンスを開き、本人、家族のニーズに沿ったケアプランを作成している。カンファレンスは、必要時に集まり話し合いを設けるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を経過記録に記入し、月に1回スタッフ間で話し合いを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嗜好品や化粧品等はスタッフと一緒に好みの物に買い物に出掛け個別購入をしている。本人の希望を家族と相談し支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や他事業所、地域の情報を得ながら参加できそうな行事やイベントには少人数で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで関わりのある主治医との関係を継続できるように家族の協力の下受診している。又、他科受診や往診などが必要となった時には情報提示した中で選択してもらい納得の上で受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常な状態を察知した時や日常判断に困るケースにも、相談し、一緒に考える体制をとっている。受診が必要な場合は、家族と相談し適切な医療を受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の病状や状態が把握できるように小まめに面会を行うようにしている。必要であれば担当看護師や主治医に情報提供を求めたり家族のムンテラ時に同席するようにしている。入退院時にはサマリーのやり取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化するにつれて、家族との話し合いを何度も行なっている。その際、本人、家族の意向と事業所の方針とをすり合わせ方向を決めるようにしている。本人の意思が確認できない場合も日常の会話や以前の状態を踏まえ検討するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、心肺蘇生法、三角巾を使用した応急手当等の講習会を消防署員の方を招いて勉強会を開催した。デモ機を使用したり、実体験をする事で実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム専用の備蓄庫の点検、確認は職員が定期的に行なっている。また、町内の防災倉庫が敷地内に設置され、更に防災協力が深まった。総合避難訓練は、地域の方や家族にも参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、言って欲しくない言葉などを把握し、気持ちを傷つけないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日などには、本人と話し合いどのようにしたいか要望を取り入れ、出来る限り実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなテレビを観て頂く。ソファで過ごして頂くなど一人ひとりの好みに合わせて過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着と外出着を分けて変化をつけるようにしている。又、定期的な訪問理美容でその人に似合ったカットやブロー、化粧等をする機会をもうけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンからの匂い、様子を感じながら毎食美味しく食べて頂いている。行事食などの関わり等は一緒に手伝って頂き楽しみながら食事の準備、茶碗拭き、下膳後片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムをパターンシートに細かく記録し、一日の状態を共通シートでスタッフ全員把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い一人ひとりの能力に応じた見守りや介助を行なっている。口腔ケアの重要性を職員全員が理解しており定期的に歯科往診を受け、日ごろできないクリーニングを継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないケアを行なうために、排泄動作のどこの過程に介助がどのくらいいるかをアセスメントし、本人の言葉などに耳を傾けタイミングよくさりげない声かけ、介助を行なうように話し合い実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に傾いた方には、野菜ジュース、果物などの繊維類を摂って頂いたり、運動、腹部マッサージをまずは試みている。又、医師とも相談し、下剤を服用を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼間、個別に時間をかけて入浴して頂いている。本人の体調を考慮し、出来るだけ希望に沿える様に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に自由に休んで頂き、その時の環境整備(室温調整)を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬情報書を活用し、すぐケアスタッフが確認出来るようにしている。新たに処方変更があったときの申し送り記録、服薬時の氏名、日にち時間お確認を必ず行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、利用者が一同に集まり、体操をし季節の歌を歌ったり気分転換を図ったりしている。季節ごとの壁飾りの作成を一緒に行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日や花火大会などの地域行事など、希望を伺い、スタッフが同行し本人の体に負担無く楽しんで頂ける環境を整え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の欲しい物を購入する為に外出する場合、本人の力に応じてお金を支払ってもらったり、職員が本人に確認しながら支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から送られてくる手紙は直接本人にお渡しする。又、内容に関して理解が出来ない場合は代読し、理解してもらえるよう解りやすい言葉で伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、毎月壁飾りを変え、また、玄関に花など飾ったりしている。花の差し替えなどは入居者と一緒に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間の中にもいろいろな場所を設定し、一人になりたい入居者には、本人が居心地が良い場所に移動して頂くなど声かけしながら行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたなじみの物やお気に入りの物を置いて頂いたり、使用して頂いたりして居心地の良い場所となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の「できること」「わかること」が少しの工夫で増えるよう考え、環境を整備している。		